四明荘湧水庭園

四明荘湧水庭園に訪れる者たちは、地元の湧水で点てた茶を飲みながら伝統的な日本家屋と庭の美しさを楽しむことができる。

明治時代（1868年 - 1912年）に京都出身の医師、伊東元三が島原の豊富な水を利用する方法を見つけ出し、この夏の静養所は夏の暑さから逃がれる一手段である。部屋は冷たい湧水で満たされた池の上に建てられており、電気を使わなくとも家が冷やされる。現在ここは一般公開されている。畳の部屋からは毎日何千トンもの湧水が流れ込んでいる庭の3つの池が見渡せる。水の温度と質は200年後の今も変わっていない。空気は常に夏涼しく冬は暖かく保たれ、庭には一年を通して緑が茂っている。